



共同通信



2007年1月19日 137号(347号)

日本基督教団 西宮共同教会月報 〒662-0834 西宮市南昭和町 10-22
0798-67-4691 FAX 0798-63-4044、Email:koudou@gamma.ocn.ne.jp
<http://www.koudou.jp/> 振替 01170-3-4901
ホームページアドレスが新しくなりました。

時代にふり回されるのではない 自分の人生を語ってほしい、
あの時 心を躍らせて生きた 自分の人生を語ってほしい、
後悔に 身をふるわせたこともある 自分の人生を語ってほしい、
笑い 泣き 歯ぎしりをした 自分の人生を語ってほしい、
今日 こんな決意をしたという 自分の人生を語ってほしい

To tell the story 37 『初めまして』

初めまして。私、下平浩三の母です。
浩三は今から4年前、トイレでたおれて以来車イスに乗るようになりました。病院に入院している時は朝7:30~13:00まで私、13:30~19:00頃まで主人が付き添っていました。その時まで元気に自転車に乗って走りまわっていた毎日でした。病院で寝ている姿を見ていて、涙が出てきた事もあります。本来私は前向きに考える様にしていましたが、今回はちょっと違った感じでした。20日ぐらいたった頃、ベッドのそばで便器に座らせる時に足に力がなく立ち上がれない状態でした。目の前が真っ黒になってしま

いました。入院から2週間、リハビリが始まりました。最初は上手くいかず親子でとまどっていましたが、本人にやる気が少し出てきた様に思い表情もしずんだ感じでしたが、少しずつ表情が変わって来ました。それと同時にパソコンの練習も始め介護士さんにジョークを言ったり明るくなってきました。あれから3年、電車に乗って大阪、神戸にと一人で行ったり親子で方々に出かけています。

私たち親も後何年生きられるか分かりませんが、親子3人元気ががんばって行きたいと思います。今年の目標。3人でハワイに行きます。

(下平 桂子)

まだ西宮養護学校に在籍していた下平浩三さんが教会や幼稚園に出入りするようになったのは一体何年前だったのだろう、80年代の前半でした。そしてたしか86年ごろにここでの「仕事」に就くことを希望されて、信徒伝道者という形での勤務が始まりました。それからいろいろなことがあり、それは一言では語れないほどの激動の時の流れだったと思います。彼が誕生してからもきっとそうだっただろうし、今もそうかもしれない。浩三さんは「あるがままに」の誌面に自分で文章を書いています。浩三さんのことをもっと知ってください、という思いで、ぜひ形にしてみませんかとおかあさんをお願いしました。生まれたころのこと、地域の園や学校に入れたいがんばったけれど叶わなかったこと、でも自分の意志で足でどんどん世界を広げていった彼のこと、などなどわたしたちが彼と出会う前のことを書いてほしい。「浩三さんのことを知ってください」、80年代には運動会で子どもをおぶって走ることにもあったのに、年長さんの赤いなわのロープは彼がリュックを背負って買

いに行っていたのに、キャンプへの参加はもちろん、何を頼んでもどこにでだって気軽に引き受けて行ってきていたのに、文中にあるとおり「2004年9月」から、その姿が少し遠のいてしまいました。そんな浩三さんのことをその40年あまりをおかあさん書いてよ、書き残してよ、何十枚になってもいいからと「脅しをかけた」のです。でも今思っています、浩三さんの家庭にとってそれは別に熱く語ることもなんでもなく、実に淡々と過ごしてこられたのだなということ。浩ちゃんが共同教会にこだわり、ベッドでの長い時間ののちもまた事務所に復活してきてくれて、今、彼なりにこだわるここでの時間を過ごしていること、それらを特別に思うのはわたしたちの一方的な思いでしかなく、これまでの歩み同様、本人もご家族も淡々としておられるのかもしれない。浩三さんの事務所復帰以来、ご両親と毎日顔を合わせてことばを交わすことができるのが、今わたしたちに20年を超えたところでのプレゼントなのかもしれないとも思っています。

(編集部より)

日本基督教団西宮共同教会集会案内

早天祈祷会	毎月1日午前6時30分から	於：西宮共同教会集会室
教会学校	毎週日曜日午前9時から	於：西宮共同教会礼拝堂
聖日礼拝	毎週日曜日午前10時45分から	於：西宮共同教会礼拝堂
聖書研究祈祷会	毎月第1・3水曜日午後7時から	於：西宮北口西伝道所
読書会	毎月第2・4水曜日午後7時から	於：西宮北口西伝道所
ゆっくり聖書を読め会	毎月第3火曜日午前10時から	於：西宮共同教会集会室

たぬい ぬい の心を 二枚の手のひら あつむきよに むかた一日が なかたぬぬ
かがえぬい直には 誰に その身に おおれる
信ずるに足る 一本の旅程 信ずるに足る 一人の敬
信ずるに足る 病魔と信ずるに足る 面罵にさされ
日は警戒せぬく 大寒に入る
寡黙でぬ一日の食卓よ ハレ折りの 代償をぬぬから
(大寒の日に 石原吉吉郎)

キリスト教という宗教の教祖とされるイエスの生きたひとこまを描いたのがマルコによる福音書10章13～16節です。そこには「幼な子をわたしのところに来るままにしておきなさい。止めてはならない。・・・」と書かれています。そして「神の国はこのような者の国である」とも書かれています。そんな子どもというものを、ひとことで言うとすれば「遊びが好き」ということになります。遊びが好きだった、Tくんが亡くなりました。入院する前も、入院してから病室のベッドでも、遊びが好きでした。Tくんが、一昨日1月6日に入院先の阪大病院で亡くなりました。子どもらしく遊びが好きで、子どもらしく遊びが好きなことが何よりも尊重される至福(これ以上ない幸福)をTくんは生きることができました。遊びが好きで、遊ぶことが尊重されて生きる子どもたちのことを、イエスは「神の国は、このような者の国である」と言っています。そのことはとりもなおさず、遊びが好きなその子どもたちを尊重する大人に、「神の国は、そんなあなたがたのようなものの国である」

と伝える言葉でもあります。

“幼な子をわたしのところに来るままにしておきなさい”と言ったイエスが、死んだ時の様子を描いたのが、マルコによる福音書15章29～34節です。その最後の様子の最後の言葉が「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」です。そんな問い、叫びに、イエスの神は何一つ答えませんでした。答えなかったのではなく、人が死ぬ時、人の死というものの通らなければならぬ時の、神と人との事実を示しています。人が死ぬ時、人が死んで行かざるを得ない時、神はその事実介入しないし、してはならないからです。ではなぜ、神は人を見捨てるのでしょうか。

Tくんが亡くなった知らせと、Tくんを送るにあたって、私どもにも役割があることになった時、すぐに“まど みちお”の詩「ぼくがここに」が心に浮かびました。お手元の式次第に記載されている詩です。

「・・・ぼくがここに いるとき、ほかの どんなものも、ぼくに かさなつて、ここに いることは できな

い、・・・」“ぼく”“T”は、“ほかのどんなものも、ぼくに かさなって、ここに いることは できない”子どもとして、子どもにとっていちばん大切な、遊びが好きであることを尊重されて生きました。家族と過ごした日にも、“突然の発病で入院生活を強いられる”ことになってからも、“ほかの どんなものも、ぼくに かさなって、ここに いることは できない”子どもとして。

人が死ぬということは、神が見捨てることです。そうして神が見捨てるのは、その人が人であること“ほかの どんなものも、ぼくに かさなって ここに いることは できない”ことを何より尊重するからのように思えます。神に見捨てられなければ、死ぬということ、人は完結できないのです。

Tくんの「突然の発病で入院生活を強いられる・・・」ことになった病気について触れておかななくてはなりません。発病した病気の治療の為、2007年7月4日に骨髄移植手術が行なわれました。大きな痛みを伴う骨髄の提供をされる方があってはじめて可能になる治療です。しかしこの治療は、たとえば60兆個という細胞の“塊”である人という生きものを相手に、その細胞の中でもいちばん重要な働きをしている骨髄を取り替えてしまう、まだ十分に進歩しているとは言えない治療手段であるとも言われます。その治療にTくんは挑むことになりました。自分以外の細胞の侵入に怒って暴れ

回るTくんの細胞に、幼いTくんの体と病状は一進一退を繰り返すことになりました。“苦痛を和らげる”為に始まった治療で苦しむ幼いTくんが、“好転”することを信じて、Tくんのご家族、阪大病院の一人お一人が力を尽くしてきました。

Tくんが亡くなる3日前、1月3日に阪大病院にお見舞いに行かせていただきましたが、会うことはできませんでした。そして3日後の1月6日にTくんは亡くなってしまいました。

遊びが好きで、子どもらしく生きて、突然の発病と治療に伴う苦痛の日々を生きて、“つかれた”とも口にするのがあったTくんの“苦痛を和らげる”のではなく“苦痛を続けさせる”ことになるかも知れない、ぎりぎりの境い目のところで“もういい”という決断がなされ、一人の幼い生命が終わりの時を迎えることになりました。そのようにして生きて、そのようにして終わりの時を迎えることになった幼い生命のことは“この世では、ほかには見られないだろうと思われくらい素晴らしい生命であった”と、垣間見るほどのことしかできませんでしたが、あえて申し上げさせていただきます。人には“わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか”というよりない死の出来事であったとしても、一つの完結した生命の終わり、神の手にゆだねられることになりました。

人が死んだ時、大急ぎで送ることをしないで、一晩あるいは二晩夜通し死んだ人に寄り添って過ごします。離れていくことの覚悟をするには、死んで離れていくその人にも、その人を送る側の一人一人にもそんな一晩、二晩が必要であることの了解の下に、前夜式というものを行ないます。一夜が明け今日はTさんと別れる告別式です。ここに集まっていただいた皆様をお願いしたいのは、“耐えられるだけ深く悲しんで、静かに自分の胸に収めて”おられるご家族のおられることに“耐えられるだけ深く悲しんで、静かに自分の胸に収めて”心にとめることで見守っていただくことです。

(2008年1月8日

告別式での式辞 菅澤邦明)

アコークロ通信(117)

新年おめでとうございます、というには遅くなりましたが・・・。
クリスマスは多少のんびりと過ごしたいと思っていたのですが、予定外の、沖縄の某教会でピンチヒッターを頼まれ慌てふためいたのです。雪のない沖縄の、10回目のクリスマス・新年を迎え、そしてまた「1.17」です。私の同居人が「沖縄限定・通訳案内士・韓国語」試験に合格しました。もともと「国土交通省」の管轄で「通訳案内士」という国家資格があります。外国から日本にやってくる観光客に外国語で通訳・案内するわけで、例えば

韓国語を学んだものがその実力をはかる試験の中で結構難易度の高い試験として知られていました。何より「日本の観光」といっても、京都、東京、富士山などなど範囲は極めて広いのです。加えて文化や自然、地理や歴史の知識も必要です。何より外国語の力(日本語力ともいえる)はそれらを的確に伝えるためにかなりのレベルが要求されます。実は同居人、何年か前に受験したのですが、あまりのレベルの高さに無念の敗退を喫してしまいました。法律が改正され、「通訳案内士」の資格はそのまま残し、2007年度から岩手県・

長野県・長崎県、そして沖縄県が「地域限定通訳案内士」の資格を認めたのです。念のためにいえば、英語ができる人が英語で京都や神戸を案内することはできるでしょう。ただし、報酬をもらって通訳案内することは、この「通訳案内士」に限られ、違反すれば罰則があるのです。誰もそんなことで捕まったりはしないのですが、「通訳案内士」の側は自負があるというわけです。沖縄は、いうまでもなく観光県です。年間550万人もの観光客が来ます。ただ、「首里城」なんかをみて終わりというのではなく、リピーターや海外からの観光客の誘致が必要であり、韓国もそのターゲットです。ですから韓国語の、沖縄での、通訳案内の整備は急務です。なおかつ、沖縄は、独特の文化や歴史、自然があり、それはそれで膨大な知識が必要です。国もそれを前提に「地域限定」を設定したのでしょう。2008年度国土交通省は、行政改革に逆行するかのように「観光庁」を新設するとのことで、海外観光客1000万人を目標にするのだそうです。ともあれ、三人の韓国語・合格者の一人となったわけです。おかげでというべきか、急にいろいろな仕事が入ってきました。私でさえ行ったことのない大東島や久米島なんかも通訳で行ったのです。久米島は、ダイビング講習受講韓国人のツアー対応で、アゴアシ付きで、しかも彼らが海にもぐって

る間は、自分が久米島観光できるというとんでもなくおいしい仕事だったようです。うらやましいともいえるのですが、のべつあるわけではなく、なおかつ、自分ではやらないゴルフ客やフィールドワークなどはそれなりの用語をチェックしなければならず、突拍子もない質問や逆に専門的な指摘などそれなりに悔しい思いもしているのです。まあ、学びと実践で積み上げるしかないのですが。

年末・年始は自分と同居人のお祝いのかねて、4日間でパスポートのスタンプ10個という旅をしてきました。中華三昧プラスポルトガル料理がメインでしたが、おいしかったのはスイーツでした。格安ツアーだったので、現地ガイドがバスの中でも物売りに励むというトンデモ旅だったのですが、場所的にはよく、加えて博物館・美術館などに行けなかったのが、近いうちにもう一度と思っているところです。旅も格差社会で子供を三人、四人連れての比較的若い家族や免税店で大量に買い物する人などや我々のように買い物などには何の興味もないものと見事に分かれていました。「ガイドの仕事」をあらためてみると、笑わせ、クレームを処理し、食事や移動の確認など「説明」だけではすまない仕事のほうが多く、語学もその時の流行語まで確認しなければならないようで、同居人にそんなことができるかは疑問なところです。

(沖縄・与那原・愛の園 後藤 聡)

「いよいよ3学期がスタートしました！」

「そ~れ!」「いくぞ~!!」のかけ声と共に幼稚園に力強い太鼓の音が響き渡りました。

まずは、園長先生と順子先生が叩きます。その迫力を引き継いで、教師たちもバチを持ちます。教師たちの次は、いよいよ年長さんの出番です。足を大きく開いて両手にしっかりバチを持ち、太鼓を叩く姿はとってもたくましくてかっこいいんです。周りのお友だちの「そ~れ!」の声に、「いくぞ~!!」と気合を入れて、2人ずつ向かい合って叩いていきます。力強く堂々と叩くお友だちもいれば、歯を食いしばって、顔を真っ赤にしながら叩いているお友だちもいます。でも、どの子の顔も真剣そのもの!それを周りで見ていたさんぽさん・らったさん、そしてっぼっぼさんは、見えないバチを持って必死に腕をふっています。憧れの年長さんになる日を夢見ている、みんなの姿はとってもかわいかったです。「ドン!ドン!ドン!」この太鼓の音で3学期がスタートしました。

日に日に寒さが増していくこの時期ですが、子どもたちは竹馬にけん玉、こまなど、この時期ならではの遊びを楽しんでいます。年長さんになると、ただ遊ぶだけではなく、いろいろな技

を磨いて、私たち大人を驚かせてくれるのです。けん玉をしながら歩いてみたり、こまをひょいっと手に乗せてみたり~。そんな年長さんを見ながら、ぼっぼさんも見よう見まねでこま回し。ひもを巻くところから大変な作業です。また、下の学年の子どもが竹馬に乗っているのを、年長が支えてあげる、という場面が見られることもあります。さんぽらったさんはなわとびに夢中。このなわとびも、やっぱりお兄さんお姉さんが跳んでいるのを見てまねをするところから始まります。そうやって、他の学年の子どもたちの遊ぶ様子を見て、そこからいろんなものを吸収したり、関わったりしながらそれぞれに成長していく子どもたちです。

1月17日は大地震子ども追悼コンサートに全員で出かけました。ゲストの中村朋子さんや nao-shin の歌を聞いたり、一緒に歌ったりと、素敵なひとときを過ごすことができました。この日は雪が降るほどの寒さだったのですが、子どもたちは本当に元気いっぱいの歌声を聞かせてくれました。震災から13年。震災では514人もの幼い命が奪われたと聞いています。今、こうして子どもたちと過ごせる毎日が決して当たり前のものではないことを考えさせられました。また、冬休みにはらっ

たぐみのこどもが天に召されました。子どもたちみんなで歌を歌って見送りました。命の尊さについて考える機会を与えられ、毎日子どもたちの笑顔があることに心から感謝したいと思いま

した。そんな子どもたちの笑顔に支えられながら、今年も毎日がワクワクでいっぱい豊かな時間を子どもたちと過ごしていきたいと思います。

(山崎 由貴)

大切な贈り物・津門川 65

“津門川塾に参加して”

先日、津門川塾に初めて参加させていただきました。途中からの参加だったのですが、集会室に入るとまず森栗先生の熱弁が聞こえてきたのです。確かその時は外国のスライドを見ながら～のお話だったように記憶しています。その瞬間、私の心は完全に掴まれました！なんて心ひかれる熱弁なんだ～！って。内容は駅前路上駐輪や一般車の侵入、車やバイクや自転車、歩行者がごちゃまぜで道路を通っている...など、西北の交通ルールの問題点に関することでした。日頃子どもたちとお散歩で歩いていて、危ないなあ～と感じたこともあったし、私自身が駅へ向かう時に駅前の道で車にクラクションをならされたり、そんな経験もあったので、とても納得させられました。(半分笑い、半分納得)そして...新年があけてのいつだったか、幼稚園の前の道に看板がかけてある

のを目にしました。『本当に実現させるんだあ！』と驚き、喜び、感心...。きっと、私が出席させていただいたあの日の津門川塾までに、何度も何度も話し合ったり行動したり～があつての実現なのだと思いますが、そんな風に現実のものにしてしまうなんて...！！子どもたちと過ごす私たちにとって、毎日の登園やお散歩が安心してできるようになることに、感謝の思いでいっぱいです。

(藤原 紘子)

今月のあ・そ・び “ 凧揚げ・たこあげ ”

毎年一月末に“ 凧揚げ大会 ”で武庫川の河川敷に集まります。今年は1月26日(土)です。

去年は、超大型と大型の“ ぐにゃぐにゃ凧 ”が揚がりましたが、両方とも揚げるのに使ったひもが弱かったり、足らなかつたりして、凧揚げを貫徹することができませんでした。

ぐにゃぐにゃ凧は、変形六角形のポリシートに左右2本の棒を固定するだけの作業は簡単で、とてもよく揚がる凧です。子どもたちが作る場合は、図面の大きさに切ったポリシートに、径4ミリの竹ひごをセロテープではりつけ、思い思いの絵を描いて、六角形の左右の両はしに凧糸を取り付ければできあがりです。ぐにゃぐにゃ凧のいいところは、2本の棒でぐにゃぐにゃ巻けば持ち運びが便利なこと、“ 糸目 ”が一つで、一本の糸で揚げてしまえることです。どんな凧も、凧がよく揚がる為には、“ バランス ”がとれていることが条件になります。ぐにゃぐにゃ凧は、そんなに苦労しなくてもバランスの面でも、作りやすい凧なのです。

去年はお父さんたちがぐにゃぐにゃ凧の超大型に挑戦し、あんな大きなものかと思う凧が、たいした風もないのに揚がってしまいました。残念だったのは、凧揚げのための“ 万全 ”の備えができていなかった為、貫徹できなかったことです。その一つは“ 糸 ”です。超大型の場合、糸というよりロープなのですが、

ロープが細かった為、糸はちぎれてしまいました。凧揚げを貫徹する為には、必要な太さのロープ(糸)を、揚がる限りの長さ用意して挑むのが、正しい“ 凧揚げ道 ”なのです。凧揚げでもう一つ大切なのがロープ(糸)巻きです。凧揚げは、ただ揚げるだけではなく、風に乗って揚がった凧がその時の風向きや風の強さなどでバランスが崩れたりすることがあって、その調整が必要になります。その時の糸を張り具合を調整するのに必要なのがロープ(糸)巻きです。凧揚げは、気まぐれな風を相手に、時には大急ぎでロープ(糸)を伸ばしたり、巻き取ったりする為にできるだけ大型のロープ(糸)巻きを用意します。そして強い力で、時には急激に伸ばしたり、巻き取ったりする時の手や指をやけどしたり、切ってしまったたりすることがありますから、必ず手袋(軍手)を用意するのが、“ 凧揚げ道 ”のたしなみなのです。

2008年1月26日(土)午前9時頃から阪急神戸線の北の武庫川右岸の河川敷で、“ 凧揚げ ”をしています。

2007年1月 あんなこと こんなこと...

- ・ 1月 1日(火)午前6時30分～、早天祈祷会
- ・ 1月 1日(月)午前11時～、新年礼拝
- ・ 1月 7日(月)午後6時～、故谷口大樹前夜式
- ・ 1月 8日(火)午前10時～、故谷口大樹告別式
- ・ 1月 8日(火)ゆっくりと聖書を読んでみませんかは休会
- ・ 1月 12日(土)午前11時～、教会学校教師会
- ・ 1月 17日(木)午前10時15分～、大地震子ども追悼コンサート
- ・ 1月 18日(金)午前10時～、
美術家松谷武判と子どもたちが創り出す“未来と希望”
- ・ 1月 26日(土)午前10時～、幼稚園・教会学校たこあげ大会
- ・ 1月 29日(火)午後5時～、教会学校教師会

にしきた商店街...

- ・ 1月 6日(日)川掃除
- ・ 1月 11日(金)西北活性化連絡協議会
- ・ 1月 16日(水)商店街役員会
- ・ 1月 19日(土)街づくり勉強会
- ・ 1月 29日(土)にしきた街舞台実行委員会

アートガレーヂ

- ・ 毎週土曜日15時～17時開室日
- ・ 1月 15日(火)丹波野菜市
- ・ 1月 10日(火)アートガレーヂ新年会
- ・ 1月 22日(火)アートガレーヂ運営委員会

関西神学塾

- ・ 1月 11日(金)午後7時～9時 講師 桑原重夫 使徒行伝を読んでもみよう(29)
- ・ 1月 18日(金)午後7時～9時 講師 勝村弘也 ヨブ記釈義(5)
- ・ 1月 25日(金)午後7時～9時 講師 田川建三 マルコ福音書註解(中)(45)
- ・ 2月 8日(金)午後7時～9時 講師 桑原重夫 使徒行伝を読んでもみよう(30)
- ・ 2月 15日(金)午後7時～9時 講師 勝村弘也 ヨブ記釈義(6)
- ・ 2月 22日(金)午後7時～9時 講師 田川建三 マルコ福音書註解(中)(46)
- ・ 2月 29日(金)午後7時～9時 講師 岩井健作 「岩井健作」の宣教学(56)

教会学校から

《12月の活動予定》

12月2日(日)

作って食べる

のびる焼き風を食べる

12月9日(日)

ちょっといいこと

クリーン大作戦に参加する

12月16日(日)

ちょっといいこと

幼稚園の先生に遊んでもらう

12月18日(火)

合同子どもクリスマス会

12月23日(日)

クリスマス祝会

12月24日(月)

キャンドルライトサービス

みんなで歌うクリスマス

《1月の活動予定》

1月6日(日)

カルタ大会

1月13日(日)

大地震記念の日追悼礼拝で合同

1月20日(日)

たこつくり

1月26日(土)

たこあげ大会

1月27日(日)

冬の遊びを遊ぶ!

まいのなんでも案内

あけましておめでとうございます。今年もよろしくお祈りします。もう松の内はとっくに過ぎましたけれども敢えて新年のご挨拶。期限なんて破るためにある、が、モットーの21歳女子大生の舞ですこんにちは。今日も締め切り当日です。実は年始に、久しぶりに公同教会にお邪魔しまして、ていうか挨拶しようと思って伺ったんですけどね、とりあえず、門のところのミッフィーの朽ち具合に、年月を感じました。だってあの子、あたしが幼稚園のときはあひ銀行でアイドルだったんですよ？ショーウィンドウの中の箱入り娘、幼稚園児からしたら高嶺の花だったんですよ？で、あひ銀行がりな銀行になると同時に幼稚園に身請けされ（これが筆者が高1くらい）雨にも負けず風にも負けず……。まさかこんな姿になろうとは。でも彼女（だよな多分）は幸せだと思います。

さて、そういうわけで挨拶に伺いましたらね、何やらこの連載、なかなか好評らしく、むしろ筆者がどんな人間だと話題騒然だとか。（嘘）ということで今回のカットは自画像チックです。あくまでチックです。人目に見られるように修正済みなので、脳内でブサイク3割増しぐらいにしてご覧ください。

そして、相当遅くなったのですが、みれなさんご結婚おめでとうございます……！！！！思えばねっこさん時代、園長の家に泊まりに行ったときに一緒に

お風呂に入ったこともあるのです。後の共同キャンプでは、そのおにぎりを握る上手さに感動しました。そんなお姉さんが結婚……わたくしも、もう、おめでとうございますの前に羨ましいという言葉が出てしまう年齢になりましたけれども、幸せな結婚生活をお祈りしております！そしてあやかれるように頑張ります。だって、ちょうどこないだ、私の好みにクリティカルヒットな有名人、KREVA（「守り人シリーズ」を実写映画化するならヒュウゴはこの人だと信じてます）が結婚されまして。心の喪中なんです。いや、別に結婚できると思ってたとかじゃなくてさ。なんちゃって仮想失恋。バーチャルロストラブ。英語にしても何もカッコよくない。ま、そんなわけで今回は紹介というよりはエッセイ風味に書き綴っております。私の日常をもっと皆に知ってほしいの！！みたいな。……テンションがおかしいのはいつもの事です。

さて、そんなわたくしですが、一応テスト期間なのです。気がつけば半分ぐらい終わってたんですけど、一応文学部生として色々受けてるんです。先日の英文学のテストでは

「シャーロック・ホームズとブラウン神父について特徴を比較しながら書きなさい」という論述に、嬉々として取り組みました。どちらも推理小説の有名な探偵

ですね。まあ、個人的な好みにより、文章の長さとか詳しくとか力の入れようとか、ホームズ：ブラウン神父 = 7 : 3 ぐらいだったけど、単位は来ると思います。ていうかホームズの格好良さについて、あんな正式に語る日が来るとは思わなかったです。頭抜群にいいし、基本的に愛想ないけど友達(ワトソン)には優しいし、背え高くて痩せててハンチングにマントにパイプで、アヘンもやるけど変装もうまくて、武術の心得もあって更にバイオリンも弾けちゃったりして・・・素敵すぎますよー！て。

一人暮らしてから、無意味に人の死ぬ話は読まなくなりましたが、海外ミステリは家にあった分(母の昔の趣味)は読んでます。家にあったのはクリスティとドイルとクイーンでした。でもその3人については原作邦訳合わせればほぼ全部あったので、妙な詳しくさです。特にお気に入りだったのは、クリスティの短編の中でも変り種(ていうかマニアック)である、パーカー・パイン事務所ものと、クイン氏もの。人の死なない事件と、怪奇系、という邪道好み。いや、読む分にはポアロもマーブルさんも面白いんだけどさ。ミステリが特に好きというわけじゃないんですよー。途中でトリックが知りたくなっちゃう駄目な子です。要はミステリ向きじゃないんだな。

あと、意外とも言われるんですが、意味なく怖いのが本当に駄目です。かわい子ぶる、とかいうレベルじゃなくて怖がり

なので、意図的に読みません。ホラー系・グロ系問わず、怖くて本にすら触れないことになります。読んだ後、一週間は机の上に放置です。(実話)見せたい人、読ませたい人は、責任とって1ヶ月はあたしと四六時中行動するという保証サービスの覚悟をしてください。はい。非常にまとまりなく、オチもなく恐縮ですが、今年もこんな調子でやっていきますので、是非お付き合いくださいませ。

(高橋 舞)

つとがわ 編集後記

1995年1月17日の、兵庫県南部大地震から13年経ちました。たくさんの命が奪われ、失った生活の再建はたやすくありませんでした。

大きな自然災害が起こった結果、そのことの“教訓”が語られ、“備え”があれこれ提案されてきました。教訓やそれに備える意識としての“連帯感”や、“公共意識”のことなども議論されています。

でも、この地域でだったら、多分これから先忘れた頃の未来にもう一度必ず起こる大きな自然災害の、教訓や備えはもちろん、連帯感や公共意識も役に立たないように思えます。多分、その時の大きな自然災害は、教訓にして備えている人の力を越え、たぶん甘ったるい連帯感や公共意識を吹っ飛ばしてしまうに違いありません。それより何より、1995年1月17日に、M7.3、震度7の地震が起こったにもかかわらず、それを“教訓”に“備える”ことで、都道府県などが見直すことになった、防災計画で想定されている震度は“6強”です。

ですから、“教訓”や“備え”“連帯感”や“公共意識”より何より、それが起こってしまった時に、たぶんあわてふためくであろう自分のことを覚悟することであるように思えます。(K)

先日、誕生日を迎えました。その当日、子どもたちからも「おめでとう！」の言葉をもらいました。家族で食事に行ったり、懐かしい友人からお祝いのメールが届いたり、素敵なカードでお手紙をいただいたり。昔のように一つ年を重ねるのはそんなに嬉しくはありませんが、「おめでとう！」のお祝いはいつになっても嬉しいです。(N)

1月13日の大地震追悼記念礼拝や、1月17日の大地震子ども追悼コンサート、そして礼拝と13年前のあの大地震について考える機会が与えられました。私は大阪に住んでいるので、被害はほとんどありませんでしたが、公同にきて、こうして多くのことを感じ、学ばせていただいていることに感謝します。失われた多くの命を覚え、
14 日々、幼い命と真剣に向き合って過ごしたいと思
います。(Y)

先日、近くの小学校のとんどまつりに子どもたちと参加しました。たくさんの人たちがいる中、私の方をジーンと見る人がいます。そばには同じように園児の姿が。ん？と思って見つめ返しているとみるみるうちにその人の目が大きくなっていくと同時にえーっ！？と2人で叫んでいました。実は中学、高校の同級生で卒業して以来の再会だったのです。10年以上も会っていないのに気付いてもらえた事も嬉しかったし、同じ仕事をしている事もとても嬉しかったです。一瞬で昔に戻ったような感覚がして懐かしさでいっぱいになりました。近くにいることもわかったし、またどこかで会えるといいなあ～。なんだかすごく暖かな再会でした。(I)

公同通信を発行する「裏の仕切り屋」はわたし。何としてでも期日を守りたいのに、ささやかなその願いに非協力的ならず、邪魔してるのかと思うほどの原稿提出の遅さ。とうとう、ずっと12月冬休み前には発行していた1月号が年明けてこんなになって発行にこぎつけるということに。怖いものなしに（一見ですよ）見えるこのわたしですら、どうにもならないのですから、かしごめんなさい。とはいえ、この原稿の提出が一番最後、まあわたしもたいしたことはない、それにこのわたしも某誌の原稿提出には全くもって迷惑をかけているという前科者ではあります。

さびしいニュースで始まった2008年、さびしいながらもそのことでまた人と人がつながる、そこに温かい時間が流れ、人という字、よく言われる双方から支えあっているその字の成り立ち、それを思わせられてちょっと元気になれるという時の流れだったようにも思います。心して生きよ、そうつきつけられて新しい1年が始まりました。今年もこの通信をよろしく。(J)